



昨年は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた大変な一年となりました。

未だ終息の見通しはありませんが、新しい年が希望に満ちた明るい年になるといいですね。

本年も当院はかかりつけ医として努力してまいりますので、宜しくお願い致します。

緊急事態宣言が発令中ですが、医療機関の受診を過度に控えないようにして下さい。

ご自身の判断で医療機関の受診を控えると、持病の悪化など逆に健康上のリスクを高めるおそれがあります。当院では感染予防対策を徹底しております。安心して受診して下さい。

●特定健診・がん検診を受けましょう

初期のがんは、ほとんど自覚症状がなく無症状なことが多いので、早期に治療するにはがん検診を定期的に行うことが大切です。又、一年に一度、ご自身の健康状態を把握するために特定健診を受診しましょう。

※今年度の特定健診・がん検診を希望されている方は、早めの受診をお願い致します。

まずは、お電話にてお問合せ下さい。



●乳幼児の予防接種を受けましょう

乳幼児の定期予防接種は、望ましい年齢、接種期間が決められており、公費で接種できる期間に接種できなければ、自費で接種することになります。

※当院で予防接種を希望される方は、くわしくはお電話にてお問合せ下さい。

新型コロナウイルス感染症のワクチンについて

新型コロナウイルスワクチンの予防接種はいつ始まるの？

2月下旬をめどにコロナウイルスにかかわる機会が多い医療従事者のワクチン接種が始められるように準備が進められています。接種者の優先順位は下記のようになり、2021年前半に全国民分のワクチンの確保を目標とされています。

- 【1】医療従事者
- 【2】高齢者（令和3年度に65歳になる、昭和32年4月1日以前に生まれた方）
- 【3】基礎疾患のある方・高齢者施設の従事者
- 【4】一般の人



※妊婦については、安全性、有効性に関するデータが不足しているため、現時点ではワクチン接種の対象にはなっていません。又、接種の対象年齢は16歳以上です。日本人の子どものデータが少ないことと、子どもは感染しても重症化するリスクが低いことが理由にあげられています。

接種回数は？

現在、日本で確保しているワクチンについては2回接種です。

ワクチンの種類を選ぶことはできません。供給されている時期のワクチンで接種することになりますが、1回目と2回目は同じワクチンで接種します。

※日本はモデルナ社（米国）、アストラゼネカ社（英国）、ファイザー社（英国）とワクチン供給のため、正式契約を締結しています。

接種の費用は？

全額公費で接種を行うので無料です。



必ず接種しないとイケないの？

強制ではありません。

インフルエンザの予防接種を受ける時と同じように、接種を受ける方は感染症予防の効果と副反応のリスクについて理解した上で、ご自身で接種するかしないかを決定します。

現在、新型コロナウイルス感染症ワクチンの研究は、国内外の多数で行われており、今回、海外で開発されたワクチンを導入するにあたり、メーカーと協議し、生産体制の整備や国内治験への援助を行う事により、安全で有効なワクチンを供給できるように取り組まれています。

ワクチンの副作用は？

一般的にワクチン接種の副反応による健康被害は、稀ではありますが避けて通ることはできません。現在、日本への供給を予定している新型コロナのワクチンでも、ワクチン接種と因果関係がないものも含めて、接種部位の痛みや、頭痛、倦怠感などが発表されています。他のワクチンで具合が悪くなったことがある人や、食べ物にアレルギーがある人は、事前にかかりつけの医師に相談して下さい。

万が一、コロナワクチン接種の副反応で健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく救済を受けることができます。

新型コロナウイルス感染症のワクチンには、100%ではありませんが発症を防ぐ効果と、重症化を防ぐ効果も期待されています。このワクチン接種が集団免疫となり、新型コロナウイルス感染症の終息を導いてくれることを願います。

※集団免疫とは？

ある病原体に対して、人口の一定割合以上の方が免疫を持つと、感染患者が出て、他の人に感染しにくくなることで、感染症が流行しなくなり、間接的に免疫を持たない人も感染から守られます。この状態を集団免疫と言い、社会全体が感染症から守られることとなります。

【出典 厚生労働省ホームページ】

